

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900143		
法人名	ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家伏見深草 (ユニット1)		
所在地	京都市伏見区深草小久保町302		
自己評価作成日	平成25年4月25日	評価結果市町村受理日	平成25年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690900143-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690900143-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年6月3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々と楽しく共に一緒に過ごすため、職員間の笑顔忘れず、あたたかく楽しい毎日をごして頂くことを大切にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は「明るく楽しく」を理念に謳い、職員は常に笑顔を心がけ、利用者が楽しく暮らせるようにとの思いで日々のケアにあたっています。地域との関係性も少しずつ深まり、散歩時に挨拶を交わしたり、老人会主催のふれあい喫茶への参加、地域のゴミ拾いや公園の清掃等、利用者と共に出演しています。またホームの情報を地域へ発信し、夏祭りには地域の多くの方の参加やボランティアの協力があり、盛大に行われています。様々な取り組みを通してホームへの理解が深まり、地域の協力が更に増え、ボランティアの来訪にも繋がっています。職員のチームワークは良好で利用者の今を大切にしたいと考え連携を図り、話し合いを重ねながら利用者一人ひとりの思いの実現に向け、居酒屋や百貨店等、可能な限り出かけるよう取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に溶け込んだ事業所となれるよう職員一丸となり努めています。	法人の理念を毎日唱和し、その理念を基に「明るく、楽しく」という独自の理念を掲げ、フロア会議等で振り返りや確認を行っています。笑顔を絶やさないケアを大切にしたいという思いから職員間で話し合い理念に「笑顔の多いたのしい家」という言葉を加える予定です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行うイベントに積極的に参加し、地域の一員として受け入れて頂けるように努めている。	町内会に加入し回覧板等で地域の行事情報を得ています。日々の散歩や買い物の際に挨拶を交わしたり、公園の清掃や町内のゴミ拾い、老人会主催のふれあい喫茶などに参加しています。またホームの情報も地域へ発信し、夏祭りにはボランティアの協力もあり地域の方々を多数招待するなど、交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催で地域の方々に参加できるイベントを企画し、実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議構成員の方々から意見や助言を頂きサービスの向上に努めている。	会議は老人福祉委員や多くの家族、その他の関係者の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。行事や職員の異動等ホームの状況報告を行い、意見交換しています。参加者から地域情報をもらい、祭りに参加するなど、地域との連携につながる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の研修、連絡会に参加し、必要に応じて訪問している。	運営推進会議の議事録を届けたり、事故報告等も電話や直接窓口にて行っています。行政主催の研修や会議にできる限り参加し情報をもらい、連携を図るよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について具体的な行為の理解を深めるようにしている。	法人研修や事業所での勉強会に全職員が参加し、言葉づかいについては入職時に説明し周知に努めています。ユニットの出入り口は施錠していますが職員は弊害について理解しており家族にも了解を得ています。出かけた利用には職員が付き添って出かけた、会議で話し合いながらできる限り閉塞感のないケアを心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内外の研修に参加し、又は会議にて虐待についての理解を深めると共に防止に努めている。		

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外の研修に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、運営方針、金銭面、契約内容について十分に説明し、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望を会議、連絡ノートにて情報を共有し運営に反映させている。	法人全体で満足度調査を行い、家族に結果報告をしています。事業所では家族の面会時や運営推進会議等で意見や要望を聞き、職員間で改善策を話し合い希望に沿うよう努めています。外出についての意見を受け、外出表を作成し全利用者が偏ることなく外出できるよう取り組むなど、サービスの向上に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で施設の課題を共有している。	会議や日々の業務の中で、職員が管理者やフロアリーダーへ意見、提案をする場面が多くあります。フロア毎に置かれている連絡ノートにも意見や提案が挙がっており、職員間で検討して業務に反映させています。また業務改善届けの用紙を用い職員が意見を言い易くしたり、管理者との面談時に個々の希望や思いを伝える機会も設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課があり、職員個々の努力や実績を把握し給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は本社にて3日間の研修を受け、定期的に研修が実施されている。又、研修日誌を作成し個々の能力を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等に積極的に参加している。		

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報を職員間で共有し安心して頂けるようなコミュニケーションをとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に現在の状況、不安内容を確認し、出来るだけ迅速に対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の現状に対しどのようなサービスが適切か、ご家族様、本人と話し合い適切なサービスを受ける事ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや共同作業を通し、馴染みの関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を通じて本人の希望や意向を把握し、本人、家族、職員でカンファレンスを行い介護計画を作成し実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続できるものはホームでも利用している。又、友達や知り合いの方にも定期的に訪問して頂いている。	以前勤めていた会社の部下や友人の来訪があり、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。馴染みの喫茶店や神社へ出かけたり、自宅を見に行くなど利用者の思い出を大切にしています。また、年賀状のやりとりが継続できるよう宛名書きや投函の支援も行い、日々の会話の中から汲み取った思いは家族に伝え、出かけるまでの準備を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の日常生活の中で関係性を把握し、食事や外出時のグループ分けをし支え合えるような支援に努めている。		

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりが必要な場合は相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺う事が困難な場合でも、表情や仕草等を観察し、出来る不だけ本人本位になるように検討している。	初回面接で利用者や家族、ケアマネジャーから生活歴や希望等を聞きアセスメントシートに記録しています。日々の会話の中で聞いた意向や様子を見ながら汲み取った意向を記載すると共にカンファレンスを頻繁に開催し、本人の意向に沿ったケアになるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを利用し、生活歴、馴染みの暮らし方を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、管理日誌、看護記録を通して心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様の意向を把握し必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画に反映している。	利用者・家族からのアセスメントを基に介護計画を作成し、3ヶ月毎に職員の意見を聞きながらモニタリングを行っています。特に変化のない場合は6ヶ月毎に見直しを行い、利用者、計画作成担当者、職員が出席するサービス担当者会議を行っています。必要に応じて医師や看護師、家族の参加もあり、其々の意見を反映し現状に即した介護計画になるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノートを利用し、介護計画の見直しに活かしている。家族様との連絡ノートも作成し、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携での訪問看護、福祉用具、訪問歯科、ボランティア参加等柔軟な対応を心掛けている。		

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、出来るだけ多くの選択肢を入居者様に提供できるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族様に主治医またはクリニックの説明をしている。月2回定期的な往診があり、24時間の電話対応が可能。	入居時にかかりつけ医が継続できることを説明しています。今までのかかりつけ医への受診は家族が同行しており、受診前には利用者の状況説明をしています。協力医はかかりつけ医と直接連携を図っており、利用者の状態を把握しています。月1回内科医と精神科医の往診があり、必要に応じて皮膚科の往診もあります。協力医とは24時間連絡可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時は看護師に来て頂き、必要に応じて適切な医療機関への連携、施設内での対応のアドバイスをして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族様と連携をとり、現状の把握し情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の方針を説明し、話し合いをおこなっている。変化に応じてその都度、本人家族様、職員、主治医と話し合いの機会をもち、終末期のあり方の方向性を決めている	入居時に終末期の方針について、経口摂取が不可能となり医療行為を必要とする場合は看とり支援ができないことを説明し、重度化した場合はその都度医師や家族と話し合いを持ちながら進めていきたいと考えています。医師、看護師の協力を得ながら看とり支援を行った経緯もあり、この経験を振り返りながら次回に繋げるよう看取りの勉強会を行い、家族の希望に応じて可能な限り支援していきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期の対応については会議やカンファレンスなどで定期的に全職員に説明し実践できるよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、定期的に消防訓練を行っている。	年2回消防署立ち合いの下、昼夜想定で通報、避難誘導、消火器の使用方法等の訓練を行っています。また1、2カ月おきに消防署の指導を参考にしながら抜きうちで事業所独自の訓練を実施しています。運営推進会議で避難訓練の案内や報告をし、近隣にも声かけをしています。地域の防災訓練にも参加しています。	

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の情報を把握し、その方に適した声掛けを行うよう心掛けている。	職員は法人主催の研修会に参加しプライバシー等について学ぶ機会を持ち、参加できない職員には伝達研修を行い周知に努めています。部屋へ入る時は必ずノックをすること、排泄時や入浴の声かけ等についてはプライバシーを損ねないように留意するなど、日々の業務の中での対応に配慮しています。不適切な言動が見られた場合は管理者やリーダーがその理由も含め注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望は取り入れ、自己決定ができない方は選択できるよう配慮している。日常のケアの中で思いをくみ取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の入居者様とのコミュニケーションを通し、出来る限り要望に応じられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容日、外出先に応じた服装等、身だしなみに気を配る日を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人能力に応じて食事準備、後片付けをスタッフと共に行っている。	業者からその日の食材が運ばれ、利用者には野菜を切ったり、味付け、盛り付け、後片付け等できることに携わってもらい、職員も同じものを同じ食卓で摂り、楽しい食事となるよう支援しています。季節行事の時には利用者の好みの物を一緒に作ったり、にぎり寿司の実演、手作りおやつや外食などを楽しみ、時には弁当を持って出かけることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録に残し、好みの食事、飲み物等を把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行い、必要に応じて訪問歯科に受診を依頼している。		

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、個々の排泄パターンの把握、自尊心に配慮した支援を行っている。	できるだけトイレで排泄してもらうように個々のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っています。トイレでの排泄支援を継続することで、オムツの方も尿意を感じるようになったり、車椅子を自走してトイレへ行かれるようになった方もおられます。利用者が安心できる下着の形態を選び、無理なく排泄の自立支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排便状況を把握し、なるべく薬に頼らない排便コントロールを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日等、最低限度の入浴日として設定しているが、本人の希望に応じて多く入浴している方もおられる。	毎日入浴の準備ができており、希望があれば毎日でも可能で、最低週2回は入ってもらえるように支援しています。入浴剤を使用したり、こだわりの石鹸を使用するなど個々に合わせた心地よい入浴になるよう配慮しています。また湯は毎回入れ替え衛生面にも配慮しています。入浴拒否がある場合は、その人の動きに沿って誘導したり、話を変えながら支援するなど、工夫をし入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間、起床時間は特に設定しておらず、個々の生活習慣に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を別冊にて管理しており、副作用等に気を配らなければならない内服薬に関してはノートと等を使用し注意を促すとともに変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、買い物、家事等、一人一人の状況に応じた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ散歩を行っている。又、地域の行事等に参加する機会を持つようにしている。	散歩やドライブなどの他、桜やあじさいの花見、紅葉狩り、初詣等季節に応じた外出や利用者の希望に応じた個別支援を行っています。行き先によっては家族の協力も得られています。時にはホームの庭に出て外気浴をすることもあります。	

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じ、お小遣いを自己管理し使う機会を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話や手紙のやり取りができるよう支援をしている。定期的に郵便局へ一緒に買い物に行けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく落ち着いた環境で過ごして頂けるよう配色等を配慮し、季節に応じた風物を飾っている。	玄関先の庭やプランターに植えられたイチゴや花等で季節感を味わうことができ、リビングや廊下の壁には多くの行事の写真や利用者が作成した季節毎の作品を飾り、暖かい雰囲気作りが成されています。またソファのコーナーも設けられ、落ち着いて寛げる空間となっています。随所に空気清浄機、加湿器を設置したり、日々換気を行い快適に過ごせるような配慮もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは広く、個々のスペースを持てるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使いなれた家具、馴染みのある物を使用し維持して頂いている。	部屋は洋室でベッドを置いています。布団を敷いて休まれる方もあります。タンスやテーブル、座イス、テレビ等使い慣れたものを持ち込んでもらい、今まで住まれていた自室を再現するような配置にして家族等の写真も飾り、落ち着いて過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	簡単に様々なものを使用することが出来るよう配慮している。		